

## 基本計画書

基本計画									
事項	記入欄							備考	
計画の区分	大学院の設置								
フリガナ設置者	ガッコウホウジントヨタガクエン 学校法人豊田学園								
フリガナ大学の名称	ギフホケンダイガクダイガクイン 岐阜保健大学大学院 (Graduate School of Gifu University of Health Sciences)								
大学本部の位置	岐阜市東鷺2丁目92番地								
大学院の目的	岐阜保健大学大学院は、教育基本法ならびに学校教育法に基づき、保健医療に関する専門の理論と応用を深く教授研究し、その深奥を究めるとともに、優れた研究能力と高度な専門能力をかね備えた資質の高い人材を育成することにより、地域の保健医療の向上と福祉の増進に寄与し、その教育研究の成果により、広く地域と社会の発展と学術に貢献することを目的とする。								
新設研究科等の目的	看護研究を推進できる深い専門的な知識と能力を備え、常に自己研鑽を継続できる高い資質を持った看護研究者、高度専門職者としての看護職者を養成すること、またその養成を通じて広く地域と社会の保健・医療・福祉の向上に貢献することを目的とする。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
	看護学研究科 [Graduate School of Nursing] 看護学専攻修士課程 [Master Course of Nursing] 計	年	人	年次人	人	修士(看護学)	令和3年4月 第1年次	岐阜市東鷺2丁目92番地	
		2	13	-	26			【基礎となる学部】 看護学部看護学科  14条特例の実施	
			13	-	26				
同一設置者内における変更状況(定員の移行, 名称の変更等)	岐阜保健大学 リハビリテーション学部(令和2年3月認可申請) 理学療法学科(60) 作業療法学科(30)  短期大学部リハビリテーション学科(廃止)(90) 令和3年4月学生募集停止								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				修了要件単位数			
	看護学研究科看護学専攻修士課程	講義	演習	実験・実習	計	30単位			
		45科目	14科目	10科目	69科目				
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任教員	
			教授	准教授	講師	助教	計	助手	
	新設	看護学研究科 看護学専攻 修士課程	人	人	人	人	人	人	人
			14	3	7	1	25	4	22
	既設	計	(14)	(3)	(7)	(1)	(25)	(4)	(19)
		14	3	7	1	25	4	-	
		(14)	(3)	(7)	(1)	(25)	(4)	(-)	
		-	-	-	-	-	-	-	
		-	-	-	-	-	-	-	
		-	-	-	-	-	-	-	
		-	-	-	-	-	-	(-)	
合計		14	3	7	1	25	4	-	
		(14)	(3)	(7)	(1)	(25)	(4)	(-)	

教員以外の職員の概要	職 種		専 任	兼 任	計	大学全体				
	事 務 職 員		10 (10)	4 (4)	14 (14)					
	技 術 職 員		0 (0)	0 (0)	0 (0)					
	図 書 館 専 門 職 員		1 (1)	0 (0)	1 (1)					
	そ の 他 の 職 員		0 (0)	1 (1)	1 (1)					
	計		11 (11)	5 (5)	16 (16)					
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	(校舎敷地の共用) 岐阜保健大学短期大学 部 収容定員：90人 必要面積：900㎡ 令和3年4月に学生募集 停止予定 (運動場の共用) 岐阜保健大学短期大学 部 収容定員：90人 必要面積基準：特に なし 「その他」8,171㎡(全 て駐車場)のうち2,414 ㎡は借用。				
	校 舎 敷 地	0.00㎡	8,397.26㎡	0.00㎡	8,397.26㎡					
	運 動 場 用 地	0.00㎡	1,648.00㎡	0.00㎡	1,648.00㎡					
	小 計	0.00㎡	10,045.26㎡	0.00㎡	10,045.26㎡					
	そ の 他	0.00㎡	8,171.00㎡	0 ㎡	8,171.00㎡					
	合 計	0.00㎡	18,216.26㎡	0.00㎡	18,216.26㎡					
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	校舎共用部分は岐阜保 健大学短期大学部と共 用 収容定員：90名 必要面積：1,850㎡ 令和3年4月に学生募集 停止予定				
		685.50㎡ (685.50㎡)	11,306.58㎡ (11,306.58㎡)	0.00㎡ (0.00㎡)	11,992.08㎡ (11,992.08㎡)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	岐阜保健大学短期大 学部と共用。大学院 専用は講義室3室、演 習室2室				
	19室	5室	5室	1室 (補助職員 0人)	0室 (補助職員 0人)					
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数		看護学部と共用				
		看護学研究科看護学専攻修士課程		26 室						
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種		視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	図書は看護学部と共 用 大学全体では、 図書 13,594冊 (うち外国書234冊) 学術雑誌 63種 (うち外国書14種) 電子ジャーナル1種 (うち外国書1種) 視聴覚資料384点 機械器具5,443点 標本39点を整備		
	看護学研究科看護学専 攻修士課程	8,329〔154〕 (8,329〔154〕)	38〔11〕 (38〔11〕)		0〔0〕 (0〔0〕)	280 (280)	2,652 (2,652)		39 (39)	
	計	8,329〔154〕 (8,329〔154〕)	38〔11〕 (38〔11〕)		0〔0〕 (0〔0〕)	280 (280)	2,652 (2,652)		39 (39)	
図 書 館		面積		閲覧座席数	収 納 可 能 冊 数		大学と共用			
		573.1㎡		204席	20,000冊					
体 育 館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要			大学と共用			
		406.7㎡		テニスコート、バスケットボールコート						
経 費 積 立 方 法 の 概 要	経 費 の 見 積 り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	研究費は教授・准 教授が年額40万 円、講師・助教が 30万円。  図書購入費に は、学術雑誌、視 聴覚資料の整備費 を含む。
		教員1人当り研究費等		365千円	365千円	-	-	-	-	
		共同研究費等		2,000千円	2,000千円	-	-	-	-	
		図書購入費	8,357千円	2,502千円	2,502千円	-	-	-	-	
	設備購入費	19,894千円	500千円	500千円	-	-	-	-		
	学 生 1 人 当 り 納 付 金	コース	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
		研究コース	1,082千円	800千円	千円	千円	千円	千円		
保健師コース		1,282千円	1,000千円	千円	千円	千円	千円			
助産師コース		1,482千円	1,200千円	千円	千円	千円	千円			
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常経費補助金、資産運用収入、雑収入 等							

既設大学等の状況	大学の名称	岐阜保健大学							入学定員超過率は、令和2年度入学者数を基準とした平均	
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度		所在地
	看護学部看護学科	年	人	年次人	人	学士(看護学)	倍	令和元年度		岐阜市東鶉2丁目92番地
	4	80	-	320	1.11					
	大学の名称	岐阜保健大学短期大学部							平成31年度より学生募集停止  入学定員超過率は、令和2年度入学者数を基準とした平均	
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度		所在地
	看護学科	年	人	年次人	人	短期大学士(看護学)	-	平成19年度		岐阜市東鶉2丁目92番地
	リハビリテーション学科	3	80	-	240	-	0.71	平成21年度		同上
	理学療法学専攻	3	90	-	270	-	0.77	平成21年度		同上
	作業療法学専攻	3	60	-	180	短期大学士(理学療法学)	0.65	平成22年度	同上	
3	30	-	90	短期大学士(作業療法学)	0.65					
附属施設の概要	名称：岐阜保健大学研究センター 目的：看護・リハビリテーションの研究 所在地：岐阜市東鶉2丁目92番地 設置年月：平成31年4月 規模等：197㎡									

## 教育課程等の概要

(看護学研究科看護学専攻 修士課程)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
研究科目	特別研究	1~2通		8			○		14	1						
	課題研究	1~2通		8			○		14	2						
	小計(2科目)	-	0	16	0		-		14	2	0	0	0	兼0	-	
共通科目	看護科目群	看護学研究特論	1前	2					2							オムニバス
		看護学研究方法特論	1前	2					3		1					オムニバス
		看護教育特論	1前		2		○								兼1	
		看護政策特論	1後		2		○		2							オムニバス
		看護倫理特論	1前	2					2							オムニバス
		看護理論特論	1前	2					1							
		看護管理特論	2前		2		○			2	2					オムニバス
		地域包括ケアシステム特論	2後	2			○		2							オムニバス
		家族看護特論	2前		2		○		2			1				オムニバス
		災害看護特論	2前		2				3							オムニバス
	キャリア形成特論	1後		1						3					オムニバス	
	多文化共生特論	1後		1				2	1		1				オムニバス方式・共同(一部)	
	コンサルテーション特論	2前		2				1								
	周辺領域科目群	国際医療社会学特論	2前		2											兼1
疫学統計学		1前		2				1							兼1	
疫学統計学		1後		2				1							兼1	
フィジカルアセスメント		1後		1		○									兼2	
臨床薬理学特論		1前		2				1							兼1	
臨床認知症学特論		1後		2											兼1	
英語抄録の書き方	2後		2				1		1					共同		
病態生理学特論	1前		2				2							兼1		
小計(21科目)	-	10	29	0		-		13	3	2	0	0	兼6	-		
専門科目	広域看護学	広域看護学特論(災害看護)	1後		2				2							オムニバス
		広域看護学演習(災害看護)	1後		2				2							オムニバス
		広域看護学特論(認知症看護)	1後		2				1		1					オムニバス
		広域看護学演習(認知症看護)	1後		2				1		1					オムニバス
		広域看護学特論(精神看護学)	1後		2				1						兼1	オムニバス
		広域看護学演習(精神看護学)	1後		2				1		1					オムニバス
	実践看護学	実践看護学特論(成人看護学)	1後		2					2						兼1
		実践看護学演習(成人看護学)	1後		2					2	1					オムニバス
実践看護学	実践看護学特論(小児看護学)	1後		2				1	1						オムニバス	
	実践看護学演習(小児看護学)	1後		2				1	1						オムニバス	
小計(10科目)	-	0	20	0		-		4	3	3	0	0	兼2	-		
保健師コース専門科目	公衆衛生看護学	公衆衛生看護学概論	1前		2				1							オムニバス方式・共同(一部)
		健康教育・組織育成活動特論	1前		2				2							オムニバス
		公衆衛生看護活動特論	1前		2				1							兼2
		公衆衛生看護実践論(援助論)	1前		2				1		1					オムニバス
		地域看護診断論	1前		2				1							オムニバス方式・共同(一部)
		公衆衛生看護実践論(技術論)	1前		2				3							オムニバス方式・共同(一部)
		地域ケアシステム論	2前		1				1							オムニバス方式・共同(一部)
	公衆衛生看護管理論(健康危機管理含む)	1前		2				2							オムニバス方式・共同(一部)	
	学校・産業看護特論	1後		2				2							兼1	
	疫学	疫学特論	1前		2											兼1
		保健統計学演習	1前		2						1					兼1
	行政保健福祉	保健医療福祉行政システム論	1前		2				1			1				オムニバス
		保健医療福祉行政システム論演習	1前		2				2			1				兼1
臨地実習	公衆衛生看護学実習	1後		3				3				2			共同	
	公衆衛生看護学実習	1通		2				3				2			共同	
	公衆衛生看護学実習	1後~2前		2				3				2			共同	
	公衆衛生看護学実習	2前		1				3				2			共同	
小計(17科目)	-	0	33	0		-		4	0	1	1	2	兼5	-		

助産師コース専門科目	基礎助産学	助産学特論	1前		1					1						兼2 兼1	オムニバス オムニバス オムニバス
		助産学特論	1前		1					1							
		周産期ケア特論	1前		1					1							
		周産期生理病態学	1前		2					2							
		新生児生理病態学	1前		1					1							
		女性と母子の薬理論	1後		1					2							
	助産診断・技術学	助産診断技術学 妊娠	1前		2							3				兼1  兼3	オムニバス方式・共同(一部) オムニバス方式・共同(一部) オムニバス方式・共同(一部) オムニバス方式・共同(一部) オムニバス方式・共同(一部)
		助産診断技術学 分娩演習	1前		2			○				3					
		助産診断技術学 産褥新生児演習	1前		2			○				2					
		ウイメンズ産後ケアネウボラ演習	1通		2			○		2		3					
		周産期ハイリスク技術演習	1後		2			○		1		2					
	保母地域保健学	地域・国際母子保健学	2前		2					1		1					オムニバス
	管助産	助産マネジメント特論	2前		2					2						兼2	オムニバス方式・共同(一部)
臨地実習・助産	助産学実習 ビア	1後		3			○		2		3		2		共同 共同 共同 共同 共同		
	助産学実習 ミドル	1後		5			○		2		3		2				
	助産統合継続実習 ゴール	1後		1			○		2		2		2				
	周産期ハイリスク実習	1後		1			○				2		2				
	助産マネジメント実習	2前		1			○		2		1		2				
ウイメンズ産後ケアネウボラ実習	1通		1			○		2		3		2					
小計(19科目)			-	0	33	0	-		6	0	3	0	2	兼9	-		
合計(69科目)			-	10	131	0	-		14	3	7	1	4	兼22	-		
学位又は称号	修士(看護学)		学位又は学科の分野				保健衛生学関係(看護学関係)										
修了要件及び履修方法							授業期間等										
<p>本研究科に2年以上在籍し、研究科目から8単位(特別研究または課題研究)、共通科目から18単位以上(うち必修科目10単位)、専門科目から4単位以上の合計30単位以上を修得するとともに、必要な研究指導を受けた上で、修士論文の審査及び最終試験に合格すること。</p> <p>保健師コースの履修者は、修了要件の30単位(「疫学統計学」を含むこと)に加えて保健師コース専門科目から33単位を履修し、合計63単位を修得すること。</p> <p>助産師コースの履修者は、修了要件の30単位に加えて助産師コース専門科目から33単位を履修し、合計63単位を修得すること。</p>							1学年の学期区分			2学期							
							1学期の授業期間			15週							
							1時限の授業時間			90分							

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学研究科看護学専攻 修士課程)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研 究 科 目	特別研究	<p>(概要) 看護の実践と看護学の発展に資する研究を推進し、修士論文として完成させることを目的とする。それぞれの専門領域において関心のある研究テーマに基づき、研究課題の明確化、研究方法論の決定、研究計画書に基づく論文の作成過程を通じて、看護研究において必要な能力を修得する。</p> <p>(1 河田美紀) 医療・看護現場によく遭遇する主要病態を細胞、組織、遺伝子レベルから研究を模索する。さらに循環異常、炎症、腫瘍など項目別に深く理解し、エビデンスのある看護実践を築くための基盤を修得する。主に高齢者の呼吸器系の疾患と治療との関連、予後からみた肺がん検診の意義についての研究を行う。</p> <p>( 白井キミカ) 重度認知症高齢者の日常生活支援技術・研修プログラム開発、軽度認知症高齢者の支援活動評価、養護者による高齢者虐待の要因と課題分析、施設などの高齢者虐待防止介入についての研究を行う。</p> <p>(3 永井博弐) 医療・看護現場にみられるアレルギー疾患の発症機序と予防・ケア、アレルギー疾患治療薬の開発・適正使用に関する基礎的研究、免疫学を基礎とした予防医学に関する研究を行う。</p> <p>( 野田みや子) マタニティ・ヨーガの妊娠分娩への影響、小児の入院環境、助産師の災害支援に関する研究を行う。</p> <p>(5 石井英子) 公衆衛生看護活動の実践を通して、地域の健康増進システムの開発・主に外国人の結核状況の分析、ダブルケアにおける保健師の役割、ALSを支えるケアシステム支援に関する研究を行う。</p> <p>(6 茅喜田恵子) 精神障害をもつ当事者および家族の支援、看護者のメンタルヘルス、看護におけるグループアプローチについての研究を行う。</p> <p>(7 山本澄子) 看護基礎教育の技術習得法、看護学生の自尊感情の変容と学習への影響、看護職と看護教育に関する研究を行う。</p> <p>(8 内藤直子) リプロダクティブ・ヘルスから周産期や子育て期女性ケアと支援やケア評価、産婦リラクスケアのプログラム開発・システム開発、不妊女性と低出生体重児の家族看護についての研究を行う。</p> <p>(9 西牟田祐美子) 看護の現場における社会心理的解決法、ホスピス現場のスピリチュアルケアの実践的探索、ヨーロッパにおける近現代看護事業の要因・課題についての研究を行う。</p> <p>(10 森 裕志) 母乳中の生体防御因子に関する研究、量的・質的臨床研究における統計学的解析方法に関する研究、妊産婦・授乳婦に対する薬物投与に関する研究を行う</p>	

		<p>(11 小萱康徳) 看護の視点からみた人体構造機能学、フィジカルアセスメントに対する人体構造機能学の教育効果、血中カルシウム濃度調節機構と脊椎動物の系統進化的並びに個体発生学的研究を行う。</p> <p>(12 栃本千鶴) 地域住民の自助・互助のリテラシーによる在宅療養継続支援、地域住民へのセルフコントロール介入研究についての研究を行う。</p> <p>( 畑 吉節未) 災害看護実践行動(病院/在宅)の分析と理論構築、災害時のリスクマネジメントモデルと社会システムの構築、災害看護学習プログラムの開発と評価方法の開発についての研究を行う。</p> <p>(14 船橋香緒里) 保健師教育における効果的教授法、世代間交流にあるコミュニティづくりの手法、中・長期的災害支援方法のあり方に関する研究を行う。</p> <p>( 三浦昌子) 看護職のキャリア構築、臨床と大学との連携からのキャリアのあり方、在宅高齢者夫婦世帯における行動変容をもたらす継続可能な転倒予防プログラムの開発についての研究を行う。</p>		
	課題研究	専攻する看護分野の専門科目で学んだ内容を踏まえて、看護実践の中で生じる問題を取り上げ、研究を行う能力を育成する。其々の専門分野に関わる新しい知見を得る課題研究を行い、特定の課題についての研究成果としてまとめ発表する。研究テーマと目的に適った研究方法(研究デザインと研究対象、データ収集方法、データ分析方法、真实性・信頼性・妥当性の確保の方法、倫理的配慮)を選択し、論理的に研究成果を完成させる。学生が専攻する分野の教授または准教授が指導を担当する。本科目の履修は、原則として保健師コース及び助産師コースの学生を対象とする。		
共通科目	看護科目群	看護学研究特論	<p>(概要)看護研究の定義・必要性と国内外の看護研究の歴史・経緯と現状での課題について知り、看護実践上の改善や看護の質の向上を目指した看護研究のプロセスとその方法の概要について学修する。さらに、各自の看護実践上の課題や教育課題をどのように焦点化し、そこにみられる現象や課題からどのように看護研究につなげていくのか、加えて研究課題に関連する研究論文のクリティークを通して課題に適した研究デザインと具体的な研究方法を選択し、看護研究計画案を立案する。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>( 白井キミカ/8回) データ分析、研究倫理、文献クリティーク、研究計画書の作成 ( 畑吉節未/7回) 研究プロセス、研究デザイン、データ収集</p>	オムニバス方式
		看護学研究方法特論	<p>(概要)看護実践の科学的な説明や実践の改善・向上に寄与するための看護研究の過程・方法について学び、実際に看護研究を展開するための能力を培うことを目的とする。看護実践における看護研究の価値・重要性を理解し述べるができること、看護研究の過程と研究方法を理解し説明することができること、看護研究論文をクリティークできること、各自の看護実践上の研究課題を見出し、研究計画を立案できることを目的とする。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>( 白井キミカ/4回) 量的研究法の概要、エスノグラフィー、質的研究法の課題 (10 森 裕志/3回) 観察的研究、実験的研究 ( 畑吉節未/6回) 質的研究におけるデータ収集と分析、現象学的アプローチ (20 中谷こずえ/2回) 量的研究の分析</p>	オムニバス方式

看護教育特論	<p>専門看護師、看護教員、臨床で教育の役割を担う看護者が、教育、実践領域に於いて系統的な教育活動を展開する為に必要な専門的知識と技術を修得する。また看護基礎・卒後・継続教育における看護教育制度や体制の課題を検討し、課題解決に向けた方法を考察する。看護教育における看護ケアの質を高めるための教育的働きかけと教育環境の整備に関する知識と技術に加え、看護教育方法とその評価についても修得する。</p>	
看護政策特論	<p>(概要) 21世紀の保健・医療・看護・福祉について、ヘルスケアに関する政策と政策決定に關与する要因および構造を検討する。さらに、政策決定過程と、政策そのものの内容を分析することにより、看護の質向上のための新しい視点を養い、政策的な働きかけによる現実的な課題解決能力を養う。看護職の実態、看護職員確保対策、少子高齢社会、看護行政の実際、看護政策の策定、看護関係予算、厚生労働行政などについて考察を深める。 (オムニバス方式 / 全15回)</p> <p>(5 石井英子 / 7回) 看護行政、地域包括ケアシステムにおける看護政策 (14 船橋香緒里 / 8回) 看護関係法律、看護関係予算、看護政策</p>	オムニバス方式
看護倫理特論	<p>(概要) 看護倫理の原則等について学修し、アドボカシー・責務と責任・協力・ケアリングといった看護実践上の倫理的概念・倫理的行動の基準、倫理規定とその意義と活用、倫理的感受性、倫理的意思決定、倫理的意思決定と価値観との関係について理解を深め、看護実践の場で具体的に看護倫理上の問題を解決していく能力の向上をめざす。病む人と看護師との関係において、倫理的知識と倫理的行動力がなければならない。現実の場面で多くのジレンマをかかえる臨床の看護師には特に重要な課題となり、深く洞察し卓越した行動力が必要となる。特にリーダーの要素として瞬時的確な判断が求められる。こうした実践力につながる原理原則についての理解と倫理的判断力について考察する。 (オムニバス方式 / 全15回)</p> <p>(8 内藤直子 / 5回) 臨床現場における倫理、研究倫理、ケアにおけるジレンマと倫理 ( 臼井キミカ / 10回) 専門職の職業倫理、アドボカシー、医療者へのサポートシステム、高齢者への倫理、医療事故への対処</p>	オムニバス方式
看護理論特論	<p>看護実践を効果的に導くために、看護における理論の重要性を理解し、看護で活用されている諸理論とその変遷及び理論の構成について学修する。また、看護理論を基に、実践における看護現象との関係について深く考察する。看護実践上の課題解決に活用可能な理論・概念の特徴を追究し、既存の理論・概念を用いて、看護実践上の問題を明らかにし、実践上の問題解決過程に理論を適用する意義と課題について考察する。</p>	
看護管理特論	<p>(概要) 看護専門職に求められるマネジメントに関する高度な知識や理論を教授・学修するとともに、看護マネジメントに必要な能力として、倫理的能力の育成、医療制度、組織理論、経営理論および運営の仕方、情報管理について、参加者間の討議を通して、看護サービスの現状と課題を明らかにする。また、それらの課題について考察し問題解決方法を探求する。 (オムニバス方式 / 全15回)</p> <p>( 永坂和子 / 8回) 看護組織の質向上と看護経営、今後の看護管理の課題 ( 三浦昌子 / 7回) 看護マネジメント課題のクリティーク、リーダーシップとマネジメント、人的資源評価</p>	オムニバス方式



<p>地域包括ケアシステム 特論</p>	<p>(概要)高齢者の保健医療福祉制度と政策の現状と展望をグローバルな視点から理解し、看護の立場から政策提言するまでのプロセスを学ぶ。また、高齢者とその家族を包括的視点からとらえ、最適なサービス調整や関係職種や住民との連携・協働を促進し、倫理的意思決定による継続看護を展開するための能力を養う。ソーシャルサポートの知識を用い、フィールドワークにより、高齢者に必要とされるサポートシステムの組織化と活用を促進するための計画を立案し提案する。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>( 白井キミカ / 12回 ) 高齢者保健医療制度と地域包括ケアシステム、ケアマネジメントと社会資源の活用、諸外国のソーシャルサポートシステム ( 畑吉節未 / 2回 ) 家族介護とケアシステム、地域住民参加と保健行動の変容 ( 30 遠藤英俊 / 1回 ) ソーシャルサポートシステムの実践事例</p>	<p>オムニバス方式</p>
<p>家族看護特論</p>	<p>(概要)家族看護学の動向、家族看護学における理論や研究の動向について学修する。また、家族看護理論に基づく家族アセスメントと家族の健康を促進する方法を理解する。生活習慣病、がん疾患、母子支援、結核患者家族などの具体的な事例を用いて、看護職としての家族看護の必要性を考察し理解を深める。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>( 野田みや子 / 10回 ) 家族看護学の動向、課題、展望、家族看護の基盤理論、家族看護のプロセス、がん患者への家族看護、家族への看護援助計画 ( 20 中谷こずえ / 4回 ) 家族看護アセスメント、高齢者への家族看護 ( 畑吉節未 / 1回 ) 在宅療養者への家族看護</p>	<p>オムニバス方式</p>
<p>災害看護特論</p>	<p>(概要)国内外で起きた過去の自然・人為災害を通して、被災地域における人々の健康支援活動の実際を学び、健康支援活動に関する計画・実施および評価のプロセスと、活動を展開する上で必要な専門的・実践的な知識・技術・態度を事例を通して学ぶ。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>( 畑吉節未 / 11回 ) 災害からの回復過程、災害に必要とされる看護活動、災害看護の今後の課題と展望 ( 野田みや子 / 2回 ) 災害時の看護支援活動の倫理的な課題 ( 14 船橋香緒里 / 2回 ) 災害看護における各種組織との連携と調整</p>	<p>オムニバス方式</p>
<p>キャリア形成特論</p>	<p>(概要)看護職のキャリア形成の概観について把握したうえで、職場管理上の課題に気づき、様々な手法を用いながら、その解決方法を考察する。キャリア形成について理解するとともに、各自の業務や役割を振りかえり、職域現場の課題に気づき、その解決の方策を立てることができるとを目的とする。 (オムニバス方式/全8回)</p> <p>( 三浦昌子 / 3回 ) キャリア形成論、キャリア形成上の看護の質保証 ( 永坂和子 / 3回 ) 看護における人材育成、看護管理上の課題の抽出、モチベーションシッ プ ( 17 平岡 翠 / 2回 ) 看護の質保証の評価</p>	<p>オムニバス方式</p>

	多文化共生特論	<p>(概要)医療の場において、国籍や人種、文化、宗教、生活習慣、ジェンダー、セクシュアリティ等の個々の患者の多様性を理解し、信頼関係を構築して看護ケアを実践するための異文化看護について学ぶ。医療と看護における多文化共生について、国際情勢から日本の現状と課題を把握し、その取組みについて考察する。 (オムニバス方式/全8回)</p> <p>(9 西牟田祐美子/1回) 多文化共生のイントロダクション (8 内藤直子/1回) フィンランドの母子保健 (三浦昌子/1回) アジア地域の異文化看護 (18 高久道子/3回) 日本の外国籍住民と健康課題 (9 西牟田祐美子・18 高久道子/2回)(共同) 課題発表とディスカッション</p>	オムニバス方式・共同(一部)
	コンサルテーション特論	<p>保健・医療・福祉に関わる看護職及び他の専門職に対して、ケアを提供する際に生じる諸問題の解決において有用となるコンサルテーションの理論と方法を学ぶ。本科目では、コンサルテーションの概要・目的・タイプ及びコンサルテーションのプロセスを理解するとともに、個人及び集団のダイナミクスを通して、医療・看護領域の諸問題に対応したコンサルテーションのあり方を、保健・医療・福祉に関わる看護職の専門性の観点から追究する。</p>	
周辺領域科目群	国際医療社会学特論	<p>世界には様々な格差があり、保健医療問題はその中でも直接その影響を受ける。国際的な医療社会の理解においては、国や地域での健康の水準や、保健医療サービスの状況を示す指標として何が適切であるかを明らかにすることが重要である。開発途上国だけではなく、先進国でも様々な保健問題に対して疾病対策が取られている。世界の健康課題とそれらに対する取り組みを、国際情勢と関連づけることで、国際的な保健医療の現状を理解し、国際保健活動の現状と課題について考察する。</p>	
	疫学統計学	<p>(概要)看護の量的研究において必須となる疫学統計学について講義を行う。臨床看護・地域看護など様々な看護ケア関連のデータ分析について理解し、記述統計学・推測統計学そして生物統計学の知識・技術を修得する。保健統計資料や量的研究結果を正しく理解し活用するためには、統計学、生物統計学の知識が必要である。疫学の基本的事項を理解することを目的に、疫学の考え方、疫学指標と疫学研究について学ぶ。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>(10 森 裕志/2回) 疫学調査法、症例対照研究 (32 木俣正博/13回) 疫学の概要、疾病頻度、スクリーニング、コホート研究、因果関係</p>	オムニバス方式
	疫学統計学	<p>(概要)看護の課題を解決するために、情報リテラシー(情報活用力)を活用し、疫学調査方法、曝露、誤差、統計学と疫学について応用的に学ぶ。推定の実際、多変量解析とロジスティック解析、スクリーニング、コンパクト、調査データのGIS表示などを含めた専門的知識を自己研究できることを目的とする。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>(10 森 裕志/2回) 疫学データの処理演習 (32 木俣正博/13回) 分散分析、回帰分析、ロジスティック回帰モデルとコックス比例、離散データと分割表、SPSSによる分析</p>	オムニバス方式

		<p>（概要）対象患者のフィジカルアセスメントをおこなうための判断の根拠、用い方を理解し、フィジカルアセスメントに必要な知識に基づいた技術を学修し、患者の身体状況を診査する能力を養う。看護過程の展開の中でフィジカルアセスメントの知識と技術を修得し、実際のケアに結び付ける看護過程の概要、構成要素、展開を学ぶ。さらに、人間の身体の状態・生命徴候を把握するために実際のケアに結び付けることができることを目的とする。 （オムニバス方式 / 全8回）</p> <p>（33 箭野育子 / 3回） 呼吸器系、循環器系、腹部消化器系フィジカルアセスメント （34 河田好泰 / 5回） 中枢神経系、脳神経系、筋骨格系フィジカルアセスメント</p>	オムニバス方式
		<p>ケアとキュアの融合による高度な看護学の知識・技術を駆使して、対象の治療・療養過程の全般を管理・実践するための基盤となる臨床薬理学の知識・技術を修得する。緊急応急処置、薬物動態と薬力学、処方上の留意点と服薬指導、症状調整、慢性疾患管理に必要な薬剤を中心に、医療専門職である看護師としての視点で、薬剤使用の判断、投与後の患者モニタリング、生活調整、回復力の促進、患者の服薬管理能力の向上を図るための知識と技術を学修する。</p>	
		<p>認知症は脳の広範な損傷による知性の障害であり、医学的には、認知機能の重篤な障害によって生活に著しい支障を認める状態として定義される。認知症者とその家族を適切に支援するためには、人の認知機能に加え、認知症者と家族が抱える医学生物学的・心理学的・社会的なさまざまな問題を理解する必要がある。本講義では、認知症を広い視野から理解し、適切な支援を行うための専門的事項について学修する。また、広く高齢社会に関わる人材育成を目的とした、国立長寿医療研究センターの研究実績等についても教授する。</p>	
		<p>本講義はワークショップ形式で英語抄録の書き方を実践していく。各学生が手掛けている修士課程における研究の背景と研究目的、研究方法、結果、考察、結論を絞った上で完成させた日本語抄録の草案をもとに、英語抄録を作成する。英語抄録を作成する上でよく使われるアカデミックな英語単語や表現に習熟する。抄録の構成、展開、特有の語彙力、表現力を身につけ、国際学会等で採択される水準の英語論文抄録を学生自身にて完成させる能力を修得することを目的とする。</p>	共同
		<p>（概要）質の高い看護実践が可能になる専門的知識を身につけるために、感染症、膠原病・免疫疾患、代謝・内分泌疾患、消化器疾患ならびに呼吸器、循環器、腎臓などそれぞれの領域の代表的な疾患についてとりあげ、病態生理について理解を深める。 （オムニバス方式 / 全15回）</p> <p>（3 永井博式 / 8回） 対象の状態と生理学的変化の解釈、感染症病態生理、膠原病・免疫疾患病態生理、内分泌系の基本病態 （1 河田美紀 / 4回） 呼吸器疾患の病態生理、虚血・梗塞、腎臓の病態生理と臨床看護判断の実践 （34 河田好泰 / 3回） 整形外科、高齢者の骨関節の病態生理</p>	オムニバス方式
専門科目	広域看護学	<p>（概要）災害サイクルの各期の特徴を概観し、看護の基本的な役割について検討する。災害サイクルと活動現場の特性を踏まえた実践的な看護活動について、また倫理的判断、他職種等との連携など、災害看護活動について理解を深める。災害時の看護の役割を理解するために、必要となる知識を概観・解説した後、看護の対象となる主な災害時の要配慮者ごとに、健康問題の特徴とそのケアおよび地域の健康危機管理、さらに災害時のこころのケアについて講義を行なう。さらに、過去に発生した災害時の活動を事例として共有し、災害時のケアのあり方について検討する。 （オムニバス方式 / 全15回）</p> <p>（ 畑吉節未 / 13回） 災害看護における看護活動と災害時のケア （ 野田みや子 / 2回） 災害看護活動に必要な看護専門職としての知識・技術・態度について</p>	オムニバス方式

<p>広域看護学演習（災害看護）</p>	<p>（概要）我が国で過去に起きた災害において、中・長期的な回復時期にあった人々の健康支援活動の実際から、災害看護時の健康支援活動に対する計画・実施および評価のプロセスを明らかにし、健康支援活動を展開する上で必要な看護専門職としての知識・技術・態度について実践的に考察する。 （オムニバス方式 / 全30回）</p> <p>（ 畑吉節未 / 28回） 災害時の中・長期的な健康支援活動に対する計画・実施および評価のプロセスについて実践的に考察する。 （ 野田みや子 / 2回） 中・長期的な災害看護支援活動で必要とされる看護ケア</p>	<p>オムニバス方式</p>
<p>広域看護学特論（認知症看護）</p>	<p>（概要）高齢者看護学の基盤となる理論枠組みを理解し、近接領域の各種理論（心理学、社会学、行動科学、生物学など）を通してさらに高齢者の理解を深めたうえで、高齢者看護実践の理論的基盤を検討する。高齢者やその家族の尊厳を脅かす要因を捉え、両者のよりよい生活基盤の構築を促進するための高齢者看護の役割・機能を学ぶ。また、これらの学びを通して、特に認知症をかかえて生きる高齢者の認知症との向き合い方や、認知症と共に生き抜くための生活の整え方をより発展的に支援するために必要な看護実践を探求する。 （オムニバス方式 / 全15回）</p> <p>（ 臼井キミカ / 12回） 高齢者看護の概観・実践理論・倫理的問題、高齢者看護における多職種連携、今後新たに求められる課題と対処策 （20 中谷こずえ / 3回） 高齢者保健医療福祉政策とサポートシステム、慢性疾患を有する認知症高齢者の療養</p>	<p>オムニバス方式</p>
<p>広域看護学演習（認知症看護）</p>	<p>（概要）認知症を持つ高齢者を多角的・包括的に捉える視点を育成すると共に、その人とその家族の健康と尊厳ある生活を支援するために必要とされる専門的支援方法を理解する。科目のすすめ方は、講義と各テーマに関するプレゼンテーションと、それに対するディスカッション形式で進め、認知症高齢者への支援を創造的に捉え治すことを主眼とする。 （オムニバス方式 / 全30回）</p> <p>（ 臼井キミカ / 18回） 現代社会における認知症高齢者の現状、認知症の病因・病態、診断法と治療法、認知症高齢者の看護に活用される介入プログラム、地域の介護保険施設等に入所している高齢者の家族を対象にした演習 （20 中谷こずえ / 12回） 認知症高齢者の生活行動の特徴とアセスメント、認知症の発症から終末期までに必要とされるケア</p>	<p>オムニバス方式</p>
<p>広域看護学特論（精神看護学）</p>	<p>（概要）精神看護の実践や研究に必要な概念や理論、援助モデル、諸制度、精神看護における今日的な課題を取り上げて探究する。本科目では、人間の身体・認知・感情・行動・対人関係に表れる精神的健康問題のメカニズムを理解するとともに、看護の諸現象を精神看護の視点から探求する。また、人々のメンタルヘルスに影響する心的外傷やケア介入の理解を深める。 （オムニバス方式 / 全15回）</p> <p>（6 多喜田恵子 / 13回） 精神の健康と精神看護実践、精神看護実践の諸モデル、精神機能と状態像、精神看護における身体ケア、グループアプローチ （35 白石洋二 / 2回） 精神科入院治療と看護、治療の場のダイナミクス</p>	<p>オムニバス方式</p>
<p>広域看護学演習（精神看護学）</p>	<p>（概要）精神看護学領域における国内外の文献講読を通して、精神看護の対象者に必要な支援を探究する。本科目では、研究疑問に関する理論的基盤や先行研究などから研究方法を学び、自己の研究課題の進展をめざす。看護実践での諸現象を読み解きながら、精神看護に関連する各自の研究疑問を明らかにし、各自の研究疑問に関連した国内外の文献検討を行う。 （オムニバス方式 / 全30回）</p> <p>（6 多喜田恵子 / 20回） 精神看護研究の現状と課題、精神看護学研究の理論的背景と研究倫理 （22 小野 悟 / 10回） 精神看護学研究の方法、文献検討、精神看護学におけるフィールドワーク</p>	<p>オムニバス方式</p>

実践看護学	実践看護学特論 (成人看護学)	<p>(概要) 成人期の病者が抱えている療養上の課題について、理論や概念を学ぶことを通して、理解を深めることを目的とする。また、慢性病者のセルフケアを支援するという視点で関連する理論や概念を学び、看護実践への適用を検討することを目的とする。 (オムニバス方式 / 全15回)</p> <p>( 三浦昌子 / 4回) 成人期ケアにおける教育・研究動向、成人期ケアの概念と歴史的背景、急性疾患の軌跡論 ( 永坂和子 / 7回) セルフケア理論、セルフマネジメント論、急性疾患の構造と変遷、危機介入の看護実践評価と看護実践課題の抽出 (36 伊佐治哲也 / 4回) セルフエフィカシー、自己効力感、コーチングとソーシャルサポート、ターミナルケアの実際</p>	オムニバス方式
	実践看護学演習 (成人看護学)	<p>(概要) 成人・初老期を対象者とした臨床療養の場における看護実践にあたって、看護職が多職種連携の中でケアをおこなっていくために、エビデンスを構築していくための理論や方法についての理解を深める。成人期に特有な健康問題を有する対象者や家族の予防的ケア確立に向けて、また健康問題を抱えて生活していく対象者のためのケア介入を構築していくための看護援助方法について探求する。 (オムニバス方式 / 全30回)</p> <p>( 三浦昌子 / 6回) 成人看護実践における援助事例の分析 (健康促進・周術期) ( 永坂和子 / 18回) 成人看護実践における援助事例の分析 (危機的状況・セルフコントロール・終末期)、研究課題と目的の明確化 (21 野村 浩 / 6回) 成人看護実践における援助事例の分析 (急性期)、文献検討とクリティーク</p>	オムニバス方式
	実践看護学特論 (小児看護学)	<p>(概要) 子どもの成長発達を促進し、健康な生活を送るための看護実践に必要な発達理論および子どもの健康に関連した概念について教授する。また、現在社会における子どもの権利の擁護と家族の支援について概説する。 (オムニバス方式 / 全15回)</p> <p>( 野田みや子 / 6回) 現在の社会における子どもの課題、子どもの理論的理解 (ピアジェ・エリクソン)、子どもの病気や障がいに対する理解、重度障がいの子どもと家族の支援 (17 平岡 翠 / 9回) 子どもの権利と倫理的問題、NICUにおける看護と退院後の支援、子どもの貧困と虐待、外国人親子の諸問題と育児・医療支援</p>	オムニバス方式
	実践看護学演習 (小児看護学)	<p>(概要) 子どもと家族に関わる際に必要な関係を形成していく態度を培い、子どものフィジカルアセスメントの方法、子どもや家族の権利を擁護する態度、子どもや家族の健康増進のための支援について概説する。また、小児看護における成長発達のアセスメントと子どもや家族の健康増進のための支援について、フィールドワークの体験を通し、子どもと家族への支援方法の修得を目指す。 (オムニバス方式 / 全30回)</p> <p>( 野田みや子 / 5回) 乳幼児をもつ家族への支援、プリパレーション、健康教育のロールプレイング (17 平岡 翠 / 25回) 子どもの健康状態アセスメントと評価方法、乳幼児健康診査、予防接種、プリパレーション・インフォームドアセント</p>	オムニバス方式

保健師コース専門科目	公衆衛生看護学	保健医療制度の変遷と公衆衛生看護活動の歴史的発展、公衆衛生看護の展開と保健計画・評価・事業化・施策化を理解する。個人・家族・集団・組織を含むコミュニティ（共同体）及び地域を構成する人々の集合体の健康増進・改善を目指すアプローチについて包括的に理解する。保健・医療・介護・福祉に関する最新の知識・技術をもって主体的かつ継続的に指導を行い、経常的に社会情勢の動向を的確に捉え、倫理的問題に対応する能力を養う。	
	公衆衛生看護学概論		
	健康教育・組織育成活動特論	<p>（概要）あらゆるライフステージの人々の健康の保持増進と疾病からの回復やQOLの向上を目指した健康教育の意義を理解し、個別的・集団的健康教育の方法と実際を学ぶ。地域における健康教育の目的、対象及び場、保健行動理論、健康教育の展開過程、健康教育の技術を理解できる。地域の人々が、自らの健康状態を認識し、健康の保持増進、予防的アプローチも含めて支援するとともに、自主的に社会資源を活用、評価する能力を養う。 （オムニバス方式 / 全15回）</p> <p>（12 栃本千鶴 / 6回） 健康教育から組織活動のマネジメント及び構築・機能化に関わる看護実践研究と研究方法 （5 石井英子 / 7回） 健康教育及び地域組織活動の概念及び保健師活動との関連、健康教育から組織活動のマネジメント及び構築・機能化に関わる看護実践研究と研究方法 （5 石井英子・12 栃本千鶴 / 2回）（共同） 健康教育及び地区組織活動に関わる発表と事業化についての発表と討議</p>	オムニバス方式・共同（一部）
	公衆衛生看護活動特論	<p>（概要）公衆衛生看護学の基本的理念や歴史的背景について理解し、行政保健、産業保健、学校保健、在宅看護における公衆衛生看護活動の概要について学修する。個人・家族・集団・組織を含むコミュニティ（共同体）及び地域を構成する人々の集合体の健康増進・改善を目指すアプローチの基本的な考え方を学ぶ。コミュニティの健康課題を、生活習慣、環境との関係性を導きながら抽出する方法と、自身の考えを伝える方法を学ぶ。 （オムニバス方式 / 全15回）</p> <p>（12 栃本千鶴 / 13回） 公衆衛生看護活動の概観と展開方法、母子・成人・高齢者・感染症・難病・精神・産業・学校における保健活動 （37 赤尾典子 / 1回） 災害被災地における多職種連携 （38 松波美智誉 / 1回） 集団援助による効果的な活動</p>	オムニバス方式
	公衆衛生看護実践論（援助論）	地域における看護活動の具体的な方法として、個人・家族・集団・地区組織を単位とした住民の健康課題の支援方法を学ぶ。保健指導の基本となる乳幼児の発達アセスメント、家庭訪問、保健行動理論を用いた行動変容につながる保健指導および健康教育の基本的考え方に基づく事業の展開などを理解する。母子保健における家庭訪問、健康診査、生活習慣病対策における健康相談、健康教育、グループ支援の方法について実践的に学び考察する。	
地域看護診断論	保健師の地域活動の出発点は、担当する地域の状況や実態を把握し、現在の健康や生活問題についての地域課題は何かを診断することである。本科目では、人々が生活する地域を対象とした支援の理念及び地域全体の健康を維持向上させる方法を身につけるために、保健師としての地域全体への活動方法（地域診断、計画、実施、評価）を理解する。地域診断から施策化までのプロセスを学ぶ。地域診断方法を、実地調査、統計分析、住民・関係機関からの意見聴取から分析する。		

<p>公衆衛生看護実践論 (技術論)</p>	<p>(概要)公衆衛生看護実習で実際に活用する、公衆衛生看護活動の方法および技術を具体的に教授する。ライフサイクルと健康問題ごとに、行政サービスとしての看護援助提供方法を理解する。母子保健活動及び母子保健指導、成人・高齢者保健福祉、精神保健福祉、障害者保健福祉における保健師の役割・機能を学修する。感染症の保健指導及び感染症の予防や蔓延予防に必要な知識・技術及び難病対策における看護職の役割・機能を学修する。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>(14 船橋香緒里/8回) 家庭訪問と看護過程の展開・生活支援・健康相談 (5 石井英子/5回) 家庭訪問と生活支援技術、母子保健演習 (12 栃本千鶴/1回) 行政機関における健康診断 (14 船橋香緒里・5 石井英子・12 栃本千鶴/1回)(共同) まとめと評価</p>	<p>オムニバス方式・共同(一部)</p>
<p>地域ケアシステム論</p>	<p>日本における感染症対策とその保健医療福祉システムについて理解する。感染症の保健指導及び感染症の予防や蔓延予防に必要な知識・技術を学ぶ。地域の健康水準を高めるために、保健・医療・介護・福祉サービスを調整し活用する能力及び地域の健康課題の解決に必要な事業化や施策化、社会資源の活用・開発・管理及びケアシステムの構築を行う能力を養う。感染症対策の体系、予防に必要な疫学調査の手法、結核保健の体系等について学び、必要な事業化や施策化、社会資源の活用・開発・管理及びケアシステムの構築について考察する。</p>	
<p>公衆衛生看護管理論 (健康危機管理含む)</p>	<p>(概要)地域の人の健康状態を分析し、行政目標や方針の具現化など、地域の健康水準を高めるために、保健・医療・介護・福祉サービスを調整する必要性を学ぶ。地域の健康課題の解決に必要な事業化や施策化、社会資源の活用・開発・管理及びケアシステムの構築を学ぶ。さらに、平常時から健康危機管理の体制を整備し、健康危機の発生時から発生後の健康課題を早期に発見し、迅速かつ組織的な対応策について、事業化のための予算案の立案も含めて学修する。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>(14 船橋香緒里/11回) 健康管理活動に際し必要な人体の生理・病理・薬剤の作用機序、感染症(結核)の保健指導と管理体制、予防的アプローチの支援集団を対象とした保健指導、健康危機管理における保健師の役割 (5 石井英子/2回) 感染症(HIV)の保健指導と管理体制 (5 石井英子・14 船橋香緒里/2回)(共同) 公衆衛生看護管理における保健師機能、まとめと討議</p>	<p>オムニバス方式・共同(一部)</p>
<p>学校・産業看護特論</p>	<p>(概要)産業看護の展開のためのシステムとネットワークの構築、職場におけるヘルスプロモーション、職業性疾病・作業関連疾患とその予防対策における看護職の役割、メンタルヘルスクアと労働災害防止対策、産業看護活動、産業看護管理、産業看護教育等について理解を深める。学校保健におけるその特性に応じた保健活動の実際を理解するとともに、学校保健と行政の母子・成人・障害者保健活動等とのつながりについて地域ケアシステムをふまえて考察する。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>(5 石井英子/7回) 学校保健計画と学校保健組織活動、子供の心身の健康問題、学校における健康教育と健康管理 (12 栃本千鶴/6回) 産業保健の定義と歴史、労働衛生行政と労働安全管理業務、職場のメンタルヘルス、学校保健・産業保健活動の実際 (39 松久千花/2回) 労働衛生行政と労働安全管理業務</p>	<p>オムニバス方式</p>
<p>疫学  疫学特論</p>	<p>公衆衛生看護過程への疫学研究方法の関わりについて、看護の知識体系と経験に基づき、疫学が健康関連の諸問題について一人の人間を対象とするのではなく、集団を対象とする科学であることを理解したうえで、疫学および疫学研究方法論について理解を深める。発表済みの疫学研究論文を精読し、論文の全体像および結果を解釈し、その内容について討論を行う。応用的な疫学的方法修得のため、専用コンピュータ支援ソフトを用いて実践的に学ぶ。</p>	

保健統計学	保健統計学演習	<p>(概要) 公衆衛生看護活動を行う上での疫学的重要性を理解し、人間集団としての健康水準及び疾病異常に関する要因を探り、地域における疾病や健康水準の予防、向上に役立てる解決策を見いだす方法論について理解する。さらに、対象集団の生活や健康等に関する情報を多角的・継続的に捉えて分析する能力を強化する必要性を理解する。公衆衛生看護活動における統計学の基礎、情報処理技術及び統計情報とその活用方法について演習を通して考察する。</p> <p>(オムニバス方式 / 全15回)</p> <p>(18 高久道子 / 11回) 疫学調査法、スクリーニングの理論、各種疾患の疫学・調査法、記述統計、保健統計の種類と健康指標 (40 藤原奈佳子 / 4回) 疫学の概念、保健統計の概念</p>	オムニバス方式
保健医療福祉行政論	保健医療福祉行政システム論	<p>(概要) 保健医療福祉計画の策定及び社会資源活用の実際について、主な市町村のシステムを比較し、地域サポートシステムの実際の運用や、住民参加活動支援・育成の展開方法、課題を組織的に解決するシステムについて学ぶ。行政などの調査報告結果で明らかにされた、生活環境が人々に及ぼす健康上の影響など、健康に係る社会問題を解決する政策形成過程に活かす方法を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式 / 全15回)</p> <p>(14 船橋香緒里 / 11回) 保健・医療・介護・福祉施策の企画及び評価、精神保健福祉法、地域保健法、健康増進法等の保健関係政策・計画、岐阜県の保健政策形成過程 (26 椋田恵子 / 4回) 介護保険法、自立支援法、高齢者・障がい者対策、生活保護制度</p>	オムニバス方式
	保健医療福祉行政システム論演習	<p>(概要) 保健医療福祉計画の策定及び社会資源の実際を、主な市町村のシステムのデータベース化、地域サポートシステムの実際や住民参加活動支援・育成の展開方法を通して学修する。政策形成過程について事例を用いた演習を通して、地域の健康水準を高めるために、地域に必要な事業化や施策化、社会資源の活用・開発・管理及びケアシステムの構築を行う能力を養う。</p> <p>(オムニバス方式 / 全15回)</p> <p>(14 船橋香緒里 / 6回) 保健・医療・介護・福祉サービス政策の考え方、ヘルスサービスリサーチ、保健・医療・介護・福祉行政の事例 (5 石井英子・14 船橋香緒里 / 5回) (共同) 健康課題の解決に必要な事業化と施策化、社会資源の活用・開発・管理及びケアシステムの構築例 (41 原田裕子 / 2回) 保健行政と事例 (26 椋田恵子 / 2回) 介護保険法をめぐる地域の状況、医療・介護・福祉サービス政策の動向と保健活動の実際</p>	オムニバス方式・共同(一部)
臨地実習	公衆衛生看護学実習	<p>公衆衛生看護学実習における広域支援実習を行う。地域で生活している人々の健康水準の向上とQOLの向上をめざす公衆衛生看護活動の実際を理解する。更に、人々の健康問題を分析し、その問題解決のために、個人と家族及び地域を対象として、ヘルスプロモーションの理念に基づいた保健師活動ができる基礎能力を養う。公衆衛生看護活動の管理や評価、健康危機管理の体制について学ぶ。保健所、保健センター、中核市保健所などの実習場所において、保健師の役割とリーダーの機能を学ぶ。</p>	共同
	公衆衛生看護学実習	<p>公衆衛生看護学実習における地域支援実習を行う。地域で生活している人々の健康水準の向上とQOLの向上をめざす公衆衛生看護活動の実践力を身につける。更に、人々の健康問題を分析し、その問題解決のために個人と家族及び地域を対象としてヘルスプロモーションの理念に基づいた保健師活動ができる基礎能力を養う。地域における健康教育の目的、対象及び場、保健行動理論、健康教育の展開過程、健康教育の技術を身につける。保健師機能の一環として、社会資源を活用、評価する能力を養う。</p>	共同



助産師コース専門科目	基礎助産学	公衆衛生看護学実習	公衆衛生看護学実習における学校・産業保健の実習を行う。公衆衛生看護活動を展開し、地域に住んでいる児童生徒や学生が健康に過ごすための保健管理に関して、健康管理・健康教育と専門職としての健康支援の能力を身につける。また、在学中だけでなく卒業後も健康を自ら維持する自己管理能力を学生に身につけてもらうための、生涯健康教育支援を行うために必要な基本的知識・技術を修得する。更に、地域保健医療福祉における関係機関・関係職種との連携について考察する。	共同
		公衆衛生看護学実習	公衆衛生看護学実習における地域ケア管理の実習を行う。地域の高齢者の権利擁護や地域の支援体制づくり、介護予防の必要な援助などを行い、高齢者の保健医療の向上及び福祉の増進と包括的な支援の能力を身につける。地域包括ケア実現に向けた中核的な機関患者を中心とする地域医療実現のため、地域社会における地域ケア専門職のプロフェッショナルリズムを理解し実践する力を身につける。地域ケア会議、医療と介護の連携、生活支援サービスの充実と高齢者の社会参加など、保健師のマネジメント機能についても実地に学ぶ。	共同
	助産学特論	助産学の概念、意義の理解とともに、母子保健の動向や助産の歴史、制度、関連法規を学ぶ。すなわち、助産学の基本理念、助産の変遷と現状について理解し、助産師の責任と役割を考察できるように学修する。そして、助産師業務の活動範囲、責務、職業倫理・生命倫理への理解を深める。国際的視野からもグローバルに助産師の活動やあり方を学び、日本および諸外国の助産活動の歴史と教育、WHOの助産師教育のグローバルスタンダードについても理解する。		
	助産学特論	ウイメンズヘルスの支援を目指し、リプロダクティブヘルス・ライツの視点から、母子の基礎科学と母子の健康科学に依拠して、ライフステージ各期の女性の健康課題を明らかにし、女性の生涯における健康の促進および向上につながる看護支援を探る。日本の助産歴史と文化を学び、世界の中の日本の助産師アイデンティティの確立を培う。助産管理の意義、必要性、助産管理の方法、周産期のリスクマネジメントについて説明できることを目的とする。		
	周産期ケア特論	ハイリスク妊娠・分娩・産褥及び新生児ケアの専門的知識とエビデンスに基づくケアを学び、ハイリスクを対象とした実践的助産活動を主体的に行える能力および緊急時に対応できる能力を培う。また、ハイリスク予備軍に対する健康向上のための科学的根拠に基づいた助産ケアについて、そのための知識・技術・理論を学ぶ。周産期のハイリスク女性、新生児の異常について、病態及び救急的対処について理解し、未熟児医療の展望のケアについて理解し説明できることを目的とする。		
周産期生理病態学	<p>(概要) 妊娠、分娩、産褥における各期の生理学的変化と異常について教授する。その後妊娠期の生理、妊娠合併症の生理学およびそれぞれの病態を理解し、母体と胎児の健康状態の診断や治療および、緊急時の対応を含めた妊婦産婦褥婦の健康管理の基本を学ぶ。 (オムニバス方式 / 全15回)</p> <p>(10 森 裕志 / 1回) 妊婦と産婦の感染 (1 河田美紀 / 1回) 妊産婦の循環器・呼吸・腎機能 (27 太田美智男 / 1回) 妊産婦の治癒力とリハビリテーション (42 尾藤長雄 / 12回) 妊娠の生理、妊婦管理、妊娠合併症、出生前診断、分娩と産褥、産科手術、産科救急</p>	オムニバス方式		

	<p>（概要）新生児期の主たる病態について理解し、正常新生児・異常新生児の診察、それに適したケアについて学ぶことを目的とする。特に新生児の救急処置については、新生児蘇生法講習を講義して全員が演習を受け、助産実践能力を高めることを目的に教授する。 （オムニバス方式 / 全8回）</p> <p>（1 河田美紀 / 1回） 呼吸系の生理、呼吸器疾患と病態 （43 近藤直実 / 7回） 正常新生児の診察と症候、早産児の管理、新生児期・早産児の救急処置、新生児の外科疾患、胎児・新生児の感染症、免疫・血液疾患</p>	オムニバス方式
	<p>（概要）これから妊娠可能なすべての女性や妊娠期・分娩期・産褥期にある女性の各期の経過に従って使用される薬剤の母親と胎児や新生児および乳児期の子どもへの薬効、代謝の基礎的原理と技法を教授する。全体的には、女性のライフステージに伴う健康課題を解決するための薬物療法の種類と管理についても教授する。 （オムニバス方式 / 全8回）</p> <p>（3 永井博弐 / 2回） 妊娠と授乳の薬理論、産褥期と薬物、更年期障害と薬物 （10 森 裕志 / 6回） 妊娠期と薬物、妊婦とかげ症候群、妊婦とアレルギー、分娩誘発薬、新生児期・乳幼児期の薬物</p>	オムニバス方式
助産診断・技術学	<p>（概要）妊婦の身体的・心理社会的な健康状態をアセスメントし、科学的根拠に基づいてケアする能力を養う。さらに、妊婦のセルフケア能力を主として中心に高めるような援助方法や保健指導を実践する能力を培うための学習を深める。そして、分娩経過に沿った分娩のメカニズムを理解して、産婦や家族の心理社会的状況を考慮した、安全・安楽・快適な満足できる出産ケアを支援するための理論やエビデンスに基づく知識・技術を修得する。 （オムニバス方式 / 全30回）</p> <p>（19 石田美知 / 4回） 成熟期・更年期・老年期女性への援助 （23 近藤邦代 / 8回） 助産活動の理論、技術の基本、助産相談・教育活動 （24 朝岡みゆき / 8回） 助産診断・技術、妊娠の生理、ハイリスク・妊婦のアセスメント （44 豊田育子 / 2回） 妊婦の栄養摂取と食生活行動 （23 近藤邦代・19 石田美知 / 4回）（共同） 助産健康教育の実際 （23 近藤邦代・24 朝岡みゆき・19 石田美知 / 4回）（共同） シミュレーションセンターでの技術演習</p>	オムニバス方式・共同（一部）
	<p>（概要）産婦および褥婦の身体的・心理社会的な健康状態をアセスメントし、科学的根拠に基づいた安全で安楽かつ、快適で満足できるような分娩・産褥期のケアをする能力を養う。更に、産後の母子のセルフケア助産実践能力を高める目的で、助産の援助方法や保健指導を実践する能力を養う。さらに、産婦とその家族の心理社会的特徴についても理解を深める。 （オムニバス方式 / 全30回）</p> <p>（23 近藤邦代 / 2回） 産婦の支援と事例 （24 朝岡みゆき / 10回） 分娩の生理、分娩期の助産診断、分娩介助法 （23 近藤邦代・24 朝岡みゆき・19 石田美知 / 18回）（共同） 助産過程の事例展開、分娩介助法の実際、スキル評価</p>	オムニバス方式・共同（一部）

<p>助産診断技術学 産褥 新生児演習</p>	<p>(概要) 褥婦の生理的变化と新生児の母体外生活への適応と生理的变化、および褥婦とその家族の心理や快適状況について理解する。さらに、乳児の身体的・心理社会的な健康状態をアセスメントし、科学的根拠に基づいたケアをする能力を養う。そして、育児期にある家族のセルフケア能力を高める援助方法・保健指導を実践する能力を養う。 (オムニバス方式/全30回)</p> <p>(19 石田美知/10回) 褥婦の心理社会的側面の支援、産後の家族計画、家庭・社会生活復帰 (23 近藤邦代/10回) 産褥期の生理、産褥期の助産診断、産褥期のフィジカルアセスメント (23 近藤邦代・19石田美知/10回)(共同) シミュレーションセンターでの褥婦支援とスキル評価</p>	<p>オムニバス方式・共同(一部)</p>
<p>ウイメンズ産後ケア ネウボラ演習</p>	<p>(概要) 国際助産師連盟(ICM)の「助産実践に必須の4つのコンピテンシー」を統合的に学び、妊娠前・妊娠中、分べん・出生直後、産後の各期のケアに特有なコンピテンシーで構成された演習を実践する。ウイメンズヘルスケアの視座から、母子支援のSDGsの考え方、フィンランドのネウボラと日本のネウボラ的子育て支援の現状、助産師による産前産後ケアへの自律した実践能力を育成する。特に、国内外の文献から現状を知り、討議・ディベート、教員のデモンストレーション、指導モデル作成後の演習から実践範囲を拡大し、知識・技能と行動力を身につける。災害時の妊産褥婦への対応、子育て支援のSDGsからみた母子の産後4か月と4か月児までの発達と健康アセスメント能力を培う。 (オムニバス方式/全30回)</p> <p>(8 内藤直子/4回) 国際助産師連盟(ICM)の助産実践に必須の4つのコンピテンシー、フィンランドと日本のネウボラ (8 内藤直子・24朝岡みゆき/4回)(共同) ウイメンズヘルスとリプロダクティブヘルスケア (野田みや子・23近藤邦代/8回)(共同) 産前産後のメンタルヘルスケア (野田みや子・19石田美知/2回)(共同) 健康促進のための援助(ヨガ) (19 石田美知・24朝岡みゆき/4回)(共同) 健康促進のための援助(ベビーマッサージ、マタニティピクス) (45 星慎一郎・46 秀山正和・8 内藤直子/2回)(共同) 東洋医療療法(つば押し) (45 星慎一郎・47 小川譲・8 内藤直子/2回)(共同) 東洋医療療法(つば押し) (24朝岡みゆき・8 内藤直子/4回)(共同) 子育て支援のSDGs</p>	<p>オムニバス方式・共同(一部)</p>
<p>周産期ハイリスク技術 演習</p>	<p>(概要) ハイリスクの妊婦・産婦・褥婦のそれぞれのアセスメントと的確な管理を学び、そのアセスメントの結果から必要な最善のケアが実施できるようにする。また、妊娠・分娩・産褥の合併症やハイリスク新生児および乳児の健康状態をアセスメントし、科学的根拠に基づいたケアをする能力を養う。更に、育児期にある家族のセルフケア能力を高める援助方法・保健指導を実践する能力を養う。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>(23 近藤邦代/4回) 分娩の3要素の異常 (24 朝岡みゆき/5回) ハイリスク・異常分娩時のアセスメントと支援 (9 西牟田祐美子/2回) 妊産褥婦のメンタルヘルスの特徴 (23 近藤邦代・24 朝岡みゆき/4回)(共同) 妊産婦の事例展開、スキル評価</p>	<p>オムニバス方式・共同(一部)</p>

地域 母子 保健	地域・国際母子保健学	<p>(概要)地域や家庭における母子、家族、および女性を対象に、子育て支援や地域社会の資源活用など専門的援助について理解するとともに、様々な生活背景を持つ女性や家族への望ましい支援のあり方について考察する。また、グローバルな視野からも、国際母子保健に関する基礎的知識を学び、母子保健の課題及び改善に向けた戦略について考察する。地域で生活する女性や妊産褥婦・新生児とその家族を対象に集団や地域ケアへの概念や理論を理解し、地域母子保健や国際母子保健の現状と課題、保健医療福祉の連携、事業運営における助産師の役割を考察する。 (オムニバス方式 / 全15回)</p> <p>(8 内藤直子 / 11回) 地域母子保健の課題、母子家族とケア、母子保健活動 (18 高久道子 / 4回) 世界の母子保健の統計、在日外国人の母子保健、世界の母子保健に関する施策と支援</p>	オムニバス方式
助産 管理	助産マネジメント特論	<p>(概要)助産管理と助産業務範囲を理解し、助産業務管理の基礎的能力と助産所の運営の基本的な能力を修得する。また助産業務を評価・調整する基礎的な能力を養う。助産所の人材管理や人材育成、システム運用、ハード面の環境、資金の有効活用など組織マネジメント理論の応用から運用の実際を学ぶ。助産業務のリスクマネジメント、医療事故防止のより安全で快適な出産ケアの提供への教育・管理の視点を深める。地域連携で母子の健康へのシステムマネジメントを考え課題や展望を探求する。 (オムニバス方式 / 全15回)</p> <p>(8 内藤直子 / 2回) 周産期のリスクマネジメント、助産ケアの質保証 ( 野田みや子 / 8回) 周産期医療機関のケアの質保証、助産評価機構のシステム、助産業務管理、助産の人材開発と質向上 (28 國澤英雄 / 2回) 周産期医療施設の経営マネジメント (48 星野真理子 / 2回) 助産所の開設 ( 野田みや子・8 内藤直子 / 1回) (共同) まとめとプレゼンテーション</p>	オムニバス方式・共同(一部)
臨地 実習・ 助産学 実習	助産学実習 ピア	<p>助産過程の展開に必要な助産診断の実際、および妊婦・産婦・褥婦・新生児(胎児)を対象にして、診断(判断)と助産ケアの実際を実習し、助産過程の展開の基本に基づき安全で基本的な助産技術を実習を通じて身につける。そして、助産実践に必要な基本的理論・知識・技術・態度を修得する。 妊娠・分娩・産褥・新生児にある対象の時期の診断、経過の診断、経過の正常・異常の診断、異常の種類とレベルの判断及び経過の予測や診断ができること、 診断に基づいて妊婦・産婦を正常に経過させる援助や、原理に基づいた安全・安楽な分娩介助ができることを目的とする。</p>	共同
	助産学実習 ミドル	<p>助産の実際について、妊婦・産婦・褥婦・新生児(胎児)を対象として、診断(判断)と助産ケアの実際を実習し、助産過程の展開と安全で安楽な分娩介助技術を身につける。また、正常およびリスクを持つ母子ケアの能力を養う。助産実践に必要な基本的理論・知識・技術・態度を実習を通じて修得する。 妊娠・分娩・産褥・新生児にある対象の時期の診断、経過の診断、経過の正常・異常の診断、以上の種類とレベルの判断及び経過予測診断ができること、 診断に基づいて対象を正常に経過させる援助や、原理に基づいた安全・安楽な分娩介助ができること、 異常の発生予防と早期発見ができ、発生時の救急処置、危険回避行動が理解できることを目的とする。</p>	共同

助産統合継続実習 ゴール	妊娠中から、分娩・産褥・新生児・乳幼児期まで継続的な関わりで一人の学生が、母子を受け持ち、対象およびその家族に対する助産実践を通して、助産に必要な診断能力・技術、保健指導・コミュニケーション等の援助方法・人間関係技法、およびローリスク管理等、統合的な能力を実習を通じて修得する。 妊娠・周産期・産褥期・育児期の生理変化および心理・社会的側面の変化を理解し、経過の診断、経過の正常・異常の診断、今後の経過予測判断ができること、 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の健康診査の度にリスクチェックを行い、助産師の管理対象が医師との協働管理かを判断できること、 健康診査とエビデンスに基づき、各期において正常に経過させる保健指導・助産ケアを実施・評価できること、 地域・生活の場での、母乳育児・育児不安・母子関係成立への援助等、母子と家族への援助ができることを目的とする。	共同
周産期ハイリスク実習	低出生体重児やハイリスク児の特徴・健康診査・検査処置・看護ケア・育児指導・社会資源の活用方法、及び女性のライフスタイルにおける性・生殖に関わる健康問題を理解し、それに対する診断・治療・相談指導の能力を実習を通じて修得する。 女性のライフスタイルにおける性・生殖に関わる健康問題を理解し、それに対する診断・治療・指導を行えること、 NICUに入院中のハイリスク児を通して、新生児医療・管理の現状、発達支援とその家族に必要な支援を行えること、 NICUにおける周産期医療体制、チーム医療の連携から、助産師の役割・業務の展望を見通すことが出来ることを目的とする。	共同
助産マネジメント実習	地域における母子を対象とした専門的援助および助産所開業のための基本的な管理運営の知識と手法について、実地に学修しその能力を修得する。地域社会で生活する母子の様々な助産活動を実習を通じて学修し、社会と時代および対象のニーズに即した助産師の役割・業務について理解する。特に、助産所における分娩を実地に学ぶ。また、助産所以外における妊産婦及び新生児の健康診査・保健指導（保健所、家庭訪問）、家庭分娩を見学する。	共同
ウイメンズ産後ケアネ ウボラ実習	本実習では、妊娠中から分娩・産褥・新生児・乳幼児期まで継続して実習施設に来所した母子を受け持ち、対象とその家族への助産実践を通して、子育て支援のSDGs助産に必要な世界基準：助産実践に必須のコンピテンシーに依拠して、総合的な助産実践能力を修得する。また、多職種連携から助産師の役割を学ぶ。子育て支援のSDGsを視野に、災害時の母子への適切な支援や、母子の産後4か月と4か月児までの支援など、統合された助産実践能力を修得する。	共同

## 学校法人豊田学園 設置認可等に関する組織の移行表

### 令和2年度

学校名	学部・学科・課程名等	入学定員	編入学定員	収容定員
		0		0
計		0	-	0

岐阜保健大学	看護学部 看護学科	80	-	320
計		80	-	320

岐阜保健大学 短期大学部	リハビリテーション学科 理学療法専攻 作業療法専攻	90 60 30	-	270 180 90
計		0	-	0

岐阜保健大学 医療専門学校	はり・きゆう科 柔道整復科	30 30	-	90 90
計		60	-	180

### 令和3年度

学校名	学部・学科・課程名等	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
岐阜保健大学大学院	看護学研究科看護学専攻修士課程	13		26	大学院新設
計		13	-	26	

岐阜保健大学	看護学部 看護学科	80	-	320	学部新設
	リハビリテーション学部 理学療法学科 作業療法学科	90 60 30	-	360 240 120	
計		170	-	680	

		0 0 0	-	0 0 0	令和3年4月学生募集停止
計		0	-	0	

岐阜保健大学 医療専門学校	はり・きゆう科 柔道整復科	30 30	-	90 90
計		60	-	180